

# 『遠野物語』 および 『遠野物語拾遺』 に登場する植物と食べ物について

平 智・木村直道・佐藤祐樹

山形大学農学部  
e-mail : staira@tdsl.tr.yamagata-u.ac.jp

## Plants and Foods in “Tono-monogatari” and “Tono-monogatari-shui”

Satoshi TAIRA, Naomichi KIMURA and Yuuki SATOH

Faculty of Agriculture, Yamagata University

**Keywords** : 民話, 日本民俗, 植物, 食べ物, 柳田国男

民話は人々の生活の中から生まれ、口承されてきたものが多い。その中には、文章化され、現代まで語り継がれているものもある。民話は舞台となっている地域や時代の生活環境や食文化を知るうえで貴重な情報源の一つになっている。

著者らはこれまでに、国内外の著名な民話や童話、さらに紀行文や文学作品などに登場する植物や食べ物と人との関わりについて考察してきた（平ら, 2009; 2010; 2011a; 2011b）。それらの作品に登場する植物や食べ物には、作者が生まれ育った環境や食文化が少なからず影響していることが推察された。

『遠野物語』は、1910（明治43）年に柳田国男が、岩手県遠野町（現・遠野市）出身の小説家であり民話蒐集家であった佐々木喜善によって語られた遠野盆地から遠野街道にまつわる民話を編集し出版したもので、日本民俗をテーマにしたパイオニア的な作品の一つである。『遠野物語拾遺』は、1935（昭和10）年に再版された『遠野物語』の増補版として出版されたものである。これらに収録されている話は当時の人々の日常の暮らしぶりを描いたものが多いが、妖怪や霊などといった怪異と遭遇する非日常的な話も少なくない。また、話の中にはしばしば植物や食べ物が登場するが、それらは当時の人たちにとってどのような位置にあり、どのような関わりがあったのであろうか。さらに、非日常の世界を描いた話の中では何か特別な役割を果たしているだろうか。

本報告はこれらの点に注目して調査、検討した結果の概要をまとめたものである。

### 調査方法

まず、『新版遠野物語 付・遠野物語拾遺』（柳田国男, 角川ソフィア文庫, 2004）に収録されている全417話（遠野物語の119番を除く118話および遠野物語拾遺299話）を対象として、それらに登場する植物と食べ物をすべて抽出した。

次に、収録されている話を以下に示す8種類のカテゴリーに分類した。

- ①人々の日常生活を描いたもの（以下、「日常」と略す）
- ②日常と非日常が混在するもの（以下、「混在」と略す）
- ③物事の解説をしているもの（以下、「説明」と略す）
- ④人から聞いた話を描いたもの（以下、「言い伝え」と略す）
- ⑤豊作祈願や魔よけについて描いたもの（以下、「まじない」と略す）
- ⑥行事や習わしに関するもの（以下、「行事」と略す）
- ⑦土地の名称の由来などに関するもの（以下、「由来」と略す）
- ⑧日常と非日常との境界を描いたもの（以下、「境界」と略す）

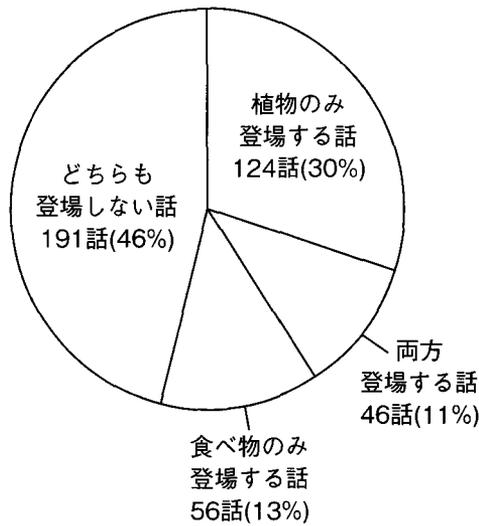
これらの分類をもとにして、そこに登場する植物および食べ物と人との関わりについて若干の考察を試みた。

### 調査結果と考察

全417話のうち、話の中に何らかの植物や食べ物が1回以上登場したものは、植物が170話、食べ物は102話であった（第1図）。登場した植物と食べ物の種類数とのべ登場回数は、植物が62種類の262回で、食べ物は80種類の158回であり、種類は食べ物の方が、回

2012年8月1日受付。  
本資料・報告の概要は、人間・植物関係学会2012年大会（神戸市）において発表した。

数は植物の方が多かった（第1表）。



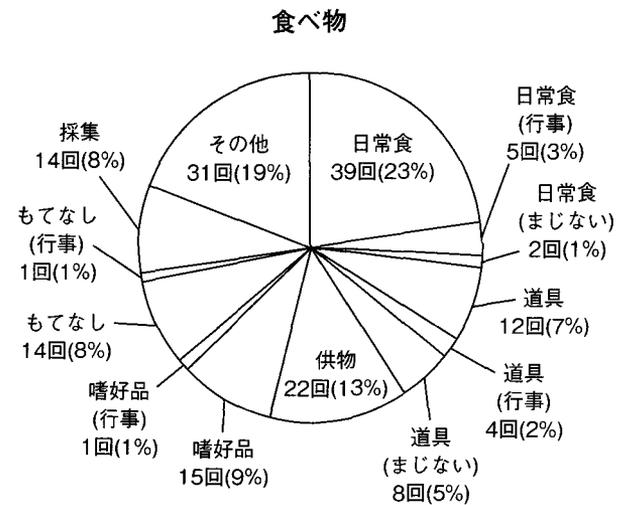
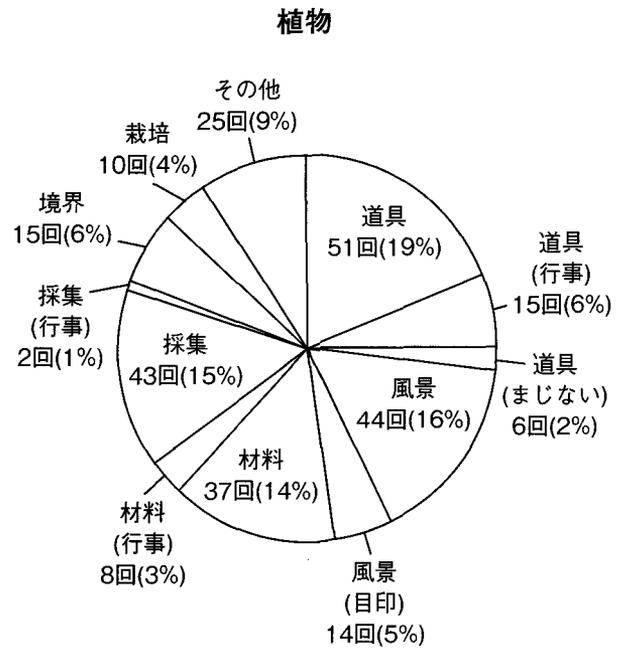
第1図.『遠野物語』および『遠野物語拾遺』における植物および食べ物が登場する話の数とその割合。  
( ) 内の数値は割合を示す。

第1表.『遠野物語』および『遠野物語拾遺』に登場する植物と食べ物の登場回数と種類。

登場回数	植物	食べ物
『遠野物語』		
27	「木」 <sup>2</sup>	
6	茸	
5		酒
4	桑	餅
3	萱, 「草」 <sup>2</sup> , 竹, 「花」 <sup>2</sup> , 松	茶
2	葦, うつ木, 桐, 笹, 梨, 薫	子, 飯
1	麻, 稲, ウド, 瓜, カツコ花 <sup>2</sup> , 菊, 草木, 草花, 胡桃, 栗, 芥子, 花, 柴, 芝, 白樺, 杉, 萩, 菖, 藤, 酸漿の実, 株 <sup>2</sup> , 蓬	油揚, 芋, 芋葱, 鏡餅, 粥, 胡桃の実, ケセネ <sup>2</sup> , 米, 酢, 雀, 膳, 豆腐, 兵糧, 昼飯, 味噌, 娘, 物
『遠野物語拾遺』		
58	「木」 <sup>2</sup>	
14	「草」 <sup>2</sup>	魚
13	松	
11		餅
8	葦	
6	萱	酒, 飯
5	稲, 瓢箪	膳
4	栗, 柴, 大根, 藪	いわな, 米
3	桑, 杉, 竹, 萩	小豆餅, 肴
2	麻, 薄, 栃, 藤, 蔓, 柳, 夕顔	赤魚, 油, オコゼ, 御馳走, 塩, 鹿, 大根, 豆腐
1	葦, 小豆, うつ木, 柿, 果実, 果樹, 南瓜, 刈敷, 菊, 胡瓜, 草花, 胡桃, 桜, せの木, 蕎麦, 唐辛, 桐, 茄子, 「花」 <sup>2</sup> , 路, 朴, マダ <sup>2</sup> , 豆, 麦, ヤダ, ヨモギ <sup>2</sup> , ヨモギ <sup>2</sup> , 蓬, 藪, 林檎, 蓮華の花	灰汁のある物, 鯛貝, 小豆粥, 小豆類, 餡入り団子, 餅, 枝大根, オミダマ飯 <sup>2</sup> , 鏡魚, 鏡餅, 菓子, 粥, 川魚, 菊の花, 狐汁, 茸, 牛肉, 草, 果物, 粟穂, 桑の実, 鶏卵, 小鳥の類, 米味噌, 米麦豆等の穀類の類, 昆布, 金平糖, サガキ <sup>2</sup> , 鮭, 死馬, 塩鮭, しとぎ <sup>2</sup> , 醤油飯, 食物, 汁, 酢, 薄餅, すまし汁, 赤飯, 黍類, 団子, 茶, 鳥獸, 土, 七草, 肉, 番椒, 実, 味噌, 物, 山芋, 山オコゼ, 蓬餅

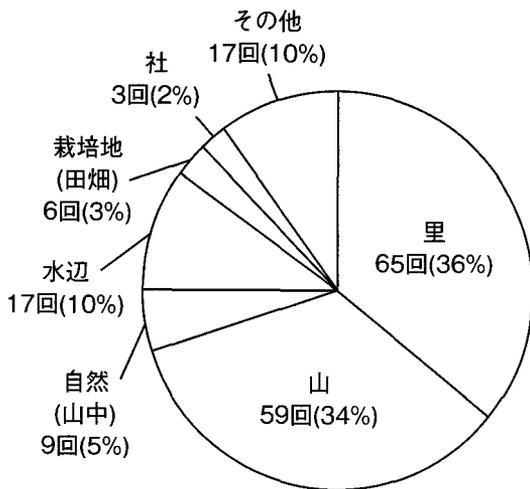
<sup>2</sup> 「」は総称を示すものとして表出しているもの。『アツモリソウ』。\*米や稗、その他の穀物。\*干し草や藁。\*正月の大年神に上げる飯。\*オオバコダイジュ。\*かけす・カラス科の鳥。\*米の粉で作った長い卵形の餅。\*山野の湿地に自在する小貝。

最も多く登場した植物は「木」(総称)で85回であった。植物は主として道具としての利用や採集の対象、風景や木像製作等の材料として登場することが多かった(第2図)。また、植物が登場する場面は、里が65回(36%)、山が59回(34%)であり、当時の人々が彼らの主な居住環境である里と同様に、山を通じて植物と深く関わって生活していたことを反映しているものと考えられた(第3図)。

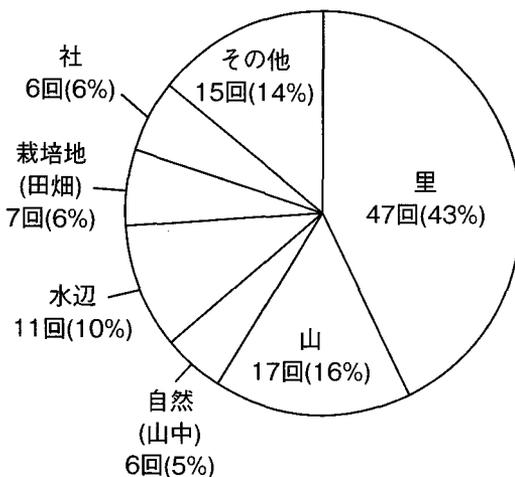


第2図.『遠野物語』および『遠野物語拾遺』に登場する植物ならびに食べ物の役割と登場回数。同一の植物や食べ物が一話の中で複数の役割を果たしている場合はそれぞれを別々に数えた。  
( ) 内の数値は割合を示す。

### 植物



### 食べ物

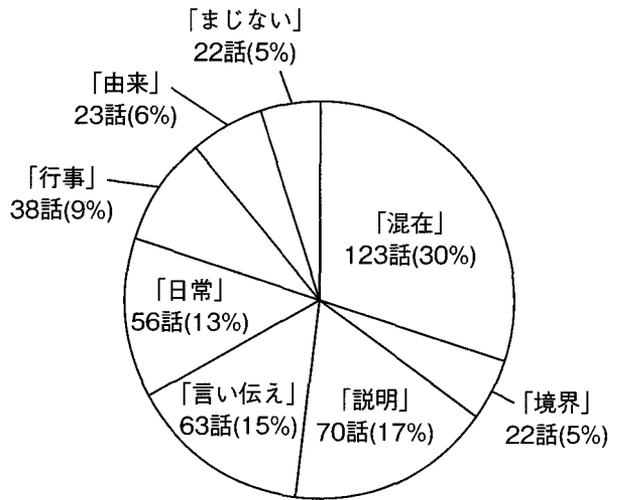


第3図.『遠野物語』および『遠野物語拾遺』に登場する植物ならびに食べ物の登場場面とその回数。( )内の数値は割合を示す。

話の中に登場する植物および食べ物について『遠野物語』と『遠野物語拾遺』の違いを比べると、食べ物では魚の登場回数に大きな差異が認められた。すなわち、魚は『遠野物語』では全く登場しなかったのに対して、『遠野物語拾遺』には食べ物のなかで最も多く登場し、その登場回数は14回に達した(第1表)。

本稿で行った分類に従うと、話の種類としては「混在」が最も多く、里と山を行き来して山男や妖怪に遭遇する話がかなりの数認められた(第4図)。「境界」に分類される話においては、植物が境界そのものになっていることが多く、さらに境界の向こう側の世界(つまり非日常の世界)ではその情景描写に「花」(総称)が登場する機会が認められた。「花」がこのような場面で登場するのが3回であるのに対して、日常の

場面では1回しか登場しないことから、「花」はどちらかといえば非日常の世界を象徴するものとしてとらえられていた。その他にも、藤蔓が日常の場面よりもしばしば非日常の場面で登場した。



第4図.『遠野物語』および『遠野物語拾遺』における話の分類とその数ならびに割合。( )内の数値は割合を示す。

食べ物は、日常食以外としては供物として登場する割合が高かった。特に、餅や団子などの穀類由来の食べ物や酒は、供物や行事、まじないに用いられる場合が多く認められた(第2図)。餅は供物のみならず人々が山に入る際の携帯食や日常食としても登場した。

食べ物のうち植物については、水稲や麦などの穀物栽培の描写がしばしばあり、それらを豊作か否かの占いに用いるケースが認められた。このことは、当時の人々の生活と穀物の生産がきわめて密接に関わっていたことを示すものと思われた。それに対して、果樹や野菜などの作物は登場回数も少ないうえに、栽培に関わる描写もほとんど認められず、山に自生している野生のものを採集しに行ったというような記述があるのにとどまった。ただし、果樹では、梨が民家の庭に植えられていたり、胡桃が民家の囲いとして植えられていたりするケースが認められた。

また、物語の中で怪異が関与しない話に登場した植物の多くは主に採集対象として登場し、当時の採集中心の生活を反映していると考えられた。一方、怪異が関与する話では、同じ植物でも境界を示すものやまじないの道具として登場するなど、特別な役割を付与されていることが多かった。

今後、『遠野物語』および『遠野物語拾遺』の話の舞台の多くが実際にあった地名で記されていることに着目すれば、場所ごとの登場回数や役割を比較することができる上に、それぞれの話の時代に注目すればさらに植物および食べ物と人との関わりの変化についてもより詳しく考察することができると考えられる。

## 引用文献

- 平 智・川野美保・山崎雪恵・小岩井 優・宮沢喜一. 2009. 日本民話やグリムおよびアンデルセン童話に登場する果実や野菜をはじめとする食物について. 農業および園芸 84:715-722.
- 平 智・村岡 翼・渡邊奈穂子・木村正勝・小林恵美・奥山忠洋. 2010. 藤沢周平の作品に登場する果物と野菜をはじめとする食べ物について. 人植関係学誌. 10(1):35-37.
- 平 智・今井健治・小笠原千晶・菅井元基・匹田直宏・深澤美幸. 2011a. 『おくのほそ道』に登場する動植物について. 人植関係学誌. 11(1):17-19.
- 平 智・北原裕理・原 理恵子・村岡陸美. 2011b. 宮沢賢治の童話作品に登場する植物について. 人植関係学誌. 11(2):15-17.